



平成28年度
自己点検・自己評価報告書

学校法人 河合塾学園
トライデントデザイン専門学校

2017年5月1日作成

1. 学校の教育目標

本校の教育理念は、『汝自らを求めよ』<自らを究め、この世に生まれて来た自らの使命を見いだして、それをあくまで追求する喜びが、すべての人間に与えられていることを意味する>である。これは河合塾グループの共通理念でもある。この教育理念を『Seek for Thyself』として学章に記して明確にしている。職業教育のいっそうの追求に向けた近年の教育改革の取り組みの中で、専門学校グループとして教育理念をより具体的な言葉にする必要があると考え、平成25年度において改めて検討のうえ宣言することにした。その内容は「トライデントは、みなさん一人ひとりを、志望の職業に導くのはもとより、将来、業界を牽引できる人材へと育て上げます。」である。これを、トライデント全校を貫く共通的な教育理念とした。

各専門課程の教育目標は次の通りである。

「グラフィックデザイン学科」

グラフィックデザインの基礎・応用・実践力を身につけ、企業が求める人材を育成する。

- ・人を楽しませ、生活を豊かにするアイデアとスキルを身につけ、企画・デザイン・コミュニケーション力を高める事を目的とする。
- ・進路を見据え、積極的に社会へアプローチして行く力を身につける。(産学共同授業など)
- ・チーム・ティーティングを取り入れた授業を展開し、きめ細やかな提案ができる力を身につける事を目的とする。

「マンガ学科」

読み手に伝わる丁寧な漫画を制作し、計画性をもって仕事ができるプロ意識の高い人材を育成する。

- ・作品投稿、持ち込みに向けて、ストーリー構成、構図力、表現力を強化。また締め切りまでのスケジュール管理を徹底し、仕事としての責任感を理解させる。
- ・自分の作画表現をさらに向上のため、絵画、写真、映画など他分野も積極的に鑑賞し、また画材の知識、作画基礎やデジタル技術も含めて強化する。

「CG デザイン学科」

CG 制作、映像編集における全行程を把握、自分の成すべき仕事を理解し新しい提案ができる人材を育成する。

- ・ドローイング・モーショントーク等の専門におけるベーシックな科目を基礎造形科目にプラスし、相乗的に造形力・表現力の向上を目指す。その上で、業界で必要とされる CG スキルを習得させる。
- ・客観性に優れた作品制作を目指す。

「インテリアデザイン学科」

インテリアデザインの分野において、幅広く厚みある能力を身に付け、社会に役立つ人材を育成する。

- ・アイデアスケッチ、スタディー模型などによって、エスキースを考える力の向上をはかる。
- ・インテリアデザイン、建築、アートに関する事に興味を持たせ、幅広い知識と能力を持たせる。
- ・積極的にコンペにチャレンジし能力の向上を図る。

「イラストデザイン学科」

デザインの基礎知識と、コミュニケーション能力を有し、目的・用途に合わせたイラストデザインができる人材を育成する。

- ・描いたものをどのような形で伝え、デザインして行くかを考えるとともに、自らそれを社会へ発信して行く力を身に付ける。
- ・平面・立体のイラストレーションを始め、枠に捉われない自由な表現方法の追求をする。
- ・エディトリアルデザインの知識と技術を身につけ、就職に強いイラストレーター育成を目指す。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①カリキュラムマップ配布：学生・講師・企業へのカリキュラムの見える化、②講義計画書改訂：習得目標の社会人基礎力の見える化、③1年次後期から「英会話」授業の実施、④留学生サポート体制強化、⑤学生ポータルサイトの導入【s-wing 学内統合情報システム】⑥姉妹校の外国語・ホテル・ブライダル校校舎共有による、一部学校行事合同実施。の⑥点を重点的に掲げ、取り組み、検証していく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
項目2：学校における職業教育の特色は何か	4	③	2	1
項目3：社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
項目4：学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	③	2	1
項目5：各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目4について

前述の各学科の教育目標を、教職員、学生、保護者、関係企業に周知しているが、まだ、十分に浸透していない。

- ・評価項目5について

常勤講師による企業との連携強化のための企業開拓が十分ではない。

② 今後の改善方策

- ・学生には、新入生対象の導入教育やホームルームを通じて、学校で学ぶべき目的等を再確認できるように、また保護者に対しては、保護者会、保護者通信を利用して周知徹底をする。
- ・教育課程編成委員会・業界研究依頼企業、常勤講師の企業開拓を通じて、業界のニーズを収集し、学科等に対応できているかの検証を行う。

③ 特記事項

- ・トライデントの教育理念を周知徹底すべく、毎年「トライデントのかなえる力」を作成し、配布している。

(2) 学校運営

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
項目2：運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
項目3：運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
項目4：人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
項目5：教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
項目6：業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
項目7：教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
項目8：情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目8について

トライデント各校をオンラインで結び、学生の入学から在籍・教務・就職・卒業まで、学生情報管理の最適化と効率化のための情報化システムを構築している。2016年度から導入された s-wing 学内統合情報システムの旧システムとの仕様の違いの理解や、活用に不慣れな点。

② 今後の改善方策

- ・ s-wing 学内統合情報システムにあわせた、計画的な効率のよい運用を行う。

③ 特記事項

事業計画については「長期ビジョン」「中期経営計画」「年次計画」に基づき、まず校舎および各学科としての年度計画を決定し、次に事業計画に下ろして運営実行している。その策定方法については、学校長を中心に、各チームチーフ・学科長の計画や意見を聞いて調整のうえ成案としている。運営状況のチェック確認については、項目によって月次や6ヶ月半期のタームごとに進捗およびスケジュールの確認を行い計画に沿った学校運営に努めている。

(3) 教育活動

評価項目	評価			
	4	③	2	1
項目1：教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	③	2	1
項目2：教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	③	2	1
項目3：学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	③	2	1
項目4：キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか		③	2	1
項目5：関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
項目6：関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
項目7：授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
項目8：職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
項目9：成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
項目10：資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
項目11：人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
項目12：関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
項目13：関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
項目14：職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	②	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目2について

受け入れた多様な学生に対して、明示された教育到達レベルや学習時間内での個別指導が課題である。

- ・評価項目5について

体系的なカリキュラムと、現場での即戦力としての人材輩出に向けてのカリキュラム修正を同時並行で実施しているが、なかなか現場の声を反映するには早くても半年後となり、タイムラグが生ずる。

連携先、研修先との関係性構築ができていない。職業教育に関わってもらえる企業内デザイナーの確保が課題である。

- ・評価項目 11 について

体系的なカリキュラムに基づき、担当講師が今、何を教えていくべきか、また学生が今、何を学び理解し、次へのステップへとレベルアップしていくのかなどの理解度や浸透度が薄い。

「デザイン」を教える講師はいるが、デザインを踏まえたくてアクティブラーニングを実施し職業観を養成することができる講師確保が課題である。

- ・項目 13 について

教員研修として、全学科共通の内容での研修は年 2 回以上、学校主体で企画運営しており、その意味では学校として取組みが動いていると評価できる。しかし、各講師の主担当科目に関しては各個人の自主性にゆだねられていることが多い。

② 今後の改善方策

- ・授業外でもフォローができるように基礎学力を補う機会を増やす。
- ・デザイン力+αのスキルを持った講師の開拓。
- ・講師対象のカリキュラム勉強会を実施する。
- ・教育技法や教材開発などを講師の個人レベルではなく、学校全体として取り組む。
- ・現場からの意見を吸い上げる機会をさらに増やす。

③ 特記事項

・各学科カリキュラムマップを作成し、講師・学生全員に配布している。修業年限に対応した到達目標を設置し、各業界や教育課程編成委員会委員からのご意見やご要望を組み込んで、カリキュラムの見直しを図り、到達目標達成に向けた科目設置や単位数の見直しなどを可能ならば半期毎に、期の途中で変更が難しい場合は次年度で反映させている。

(4) 学修成果

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
項目2：資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
項目3：退学率の低減が図られているか	4	3	②	1
項目4：卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	②	1
項目5：卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されている	4	③	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

・項目2について

資格取得を推奨しているが、マンガ家などには必須な資格もなく、また学生の意識が「検定取得」にない場合もあり、動機付けのない学生の検定対策をどのように進めるかが課題である。

入学時の基礎学力低下の影響もあり、狙える資格取得級が低下している。

・項目3について

退学の理由の多くが精神的または経済的な理由、進路変更であった。その中で、入学してすぐに「思っていた学科専攻ではなかった」という理由からの退学の場合、入学前の十分な説明で回避できるものであった。

② 今後の改善方策

・「資格取得」のためのカリキュラムの導入検討。

・卒業生は学校への愛着度が高く、後輩にあたる在校生への手助けをしたいと望んでいることが多い。この気持ちをくんで、学校が先輩と後輩の橋渡しをし、就職進学先での情報や在学中にしておくべきことなどのアドバイスを話してもらえる機会を増やす。

・募集イベントの段階から、学科・専攻カリキュラムなどをしっかり説明し、ミスマッチを防ぐ。

・卒業生の動向（活躍・離職）は、企業へはキャリアセンターから「ご挨拶」とともに「確認」のメールを送り、返信のあった企業については情報収集していく。また、個別に担任から情報を得るとともに、学校HPや同窓会を活用して、卒業生の活躍等を把握していく。

③ 特記事項

・担任制度があり、年間を通して面談をすることによって、進学就職への希望を細かく聴き取ることができ、またケアが可能になっている。

・キャリアセンター、担任、スクールカウンセラー、教務スタッフと学校が一丸となって、就職・進

学サポートをおこなっている。また、学校になじめないなどの悩みに関しても、担任から本人だけでなく保護者への対応も密におこなっている。

- ・メンタル面の問題などで就職活動ができない学生については、保護者と連携をとり、カウンセリング室の利用なども勧めている。

(5) 学生支援

評価項目	評価			
	4	③	2	1
項目1：進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
項目2：学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
項目3：学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	③	2	1
項目4：学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	②	1
項目5：課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
項目6：学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
項目7：保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
項目8：卒業生への支援体制はあるか	4	3	②	1
項目9：社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
項目10：高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

評価： 適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

① 課題

- ・評価項目2について
学生相談室の開設回数・時間が適正かどうか
- ・評価項目4について
環境適応力が低く体調不良を起しやすい学生や、メンタル不良による学生も近年増え、それに対応する保健室等の環境面や健康管理の体制面が課題。
- ・全評価項目について
サポートする方法は、現在、様々なものがあるが、全てを網羅して学生支援ができていない。

② 今後の改善方策

- ・学生相談室の利用状況の検証と見直し。
- ・施設環境に対応したクラス編成の実施や、体制面の整備。
- ・高校の教員を招いた研修会の実施や、情報交換会の実施。
- ・高校からの教員の授業見学の受け入れ、積極的な高校出張授業の引受。

③ 特記事項

・保護者には、「保護者会開催」「保護者通信」など、学校からの情報発信以外に、各担任との個別対応を実施しており、問題が大きくなるまえに対処できるシステムになっている。

(6) 教育環境

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
項目2：学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
項目3：防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

・評価項目2について

インターンシップについては受入れ企業の増加、実施時期などが課題。

② 今後の改善方策

2018年のカリキュラムに向けてインターンシップ可能な企業開拓、卒業生が活躍している企業訪問などを行う。

③ 特記事項

特になし

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
項目2：学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
項目3：学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(8) 財務

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目 1：中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
項目 2：予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
項目 3：財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
項目 4：財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

・予算について

学校運営にかかわる予算については、トライデント各校・各学科において年度予算を編成し、学校法人河合塾学園理事会の承認を経て予算が決定されている。予算執行については、河合塾グループの経理規程・予算管理規程に従い、承認された予算の各費目枠内で、執行担当者が所属長および学校長の承認を受けて執行する。予算と実績の差異は定期的にチェックし、予算実績管理の精度向上に努めている。

・監査・財務情報公開について

河合塾グループの部門として、監査法人による会計監査を受けて、良好との判定を得ている。さらに河合塾グループ監査室の内部監査も定期的に受け、問題がない旨の監査結果を得ている。また隔年ごとの愛知県の経常費用補助に関する指導検査にあたっては、健全かつ良好との講評を得ている。

私立学校法に基づく財務情報公開については、河合塾グループの一員として、法人事業報告と財務状況をまとめ、各校ホームページ上に公開している。

(9) 法令等の順守

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：法令、専修学校設置基準等の順守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
項目2：個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
項目3：自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
項目4：自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

・評価項目1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営について、日々、注意を怠ることなく実行することを心掛ける。

② 今後の改善方策

既成の評価機関との連携か、評価のための本校独自の第三者団体の創立か、数年後の実施を視野に入れ、慎重に検討を進める。

③ 特記事項

・法令等の順守について

河合塾グループ法務部の監修のもと、専修学校設置基準など、該当する各法令に従い、種々の申請・届け出・報告などの諸手続きを遅延なく確実に実施している。

・個人情報保護について

個人情報保護については、河合塾グループ情報セキュリティ事務局が設定している「個人情報保護方針」をはじめ、情報管理基本規定や各種ガイドラインなどの指示に基づき、業務フローにしたがって業務遂行にあたっている。河合塾学園として「プライバシーマーク(Pマーク)」を取得しており、その基準をクリアした運営を実施している。

・学校自己点検・評価について

学校自己点検・評価は、学校運営において日常的に励行できていない事項、チェック確認が行き届かない事項について、確認・協議、検討・改善などを行う最適の機会であると位置付けている。学科ごとに定期的な自己点検・評価を実施し、自己点検委員会が抽出した諸項目のチェック・確認とともに、項目によってはPDCAを回しながらの改善の契機としている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価			
	4	3	2	1
項目1：学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
項目2：学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
項目3：地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目1について

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献が課題。

- ・評価項目2について

瑞穂通商店街との連携による有志のオリジナル作品の販売や中村区役所との連携による中村区区民まっりのポスターデザイン制作やまつり当日の有志によるオリジナル作品の販売活動を実施している。

② 今後の改善方策

- ・近隣の商店街や笹島小学校などの語学関連のボランティアを検討する。

③ 特記事項

- ・特になし

(11) 国際交流

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1
項目2：留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
項目3：留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	③	2	1
項目4：学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目4について

昨今日本で就職したい留学生が増加している中、受け入れる企業側が、入国管理局へのビザ変更の手続きが不慣れであったり、負担のため留学生の受け入れ企業が増えないことが課題。

就職に日本語能力検定の資格が有効であるが、入学時点でN2資格がないまま入学してくる留学生にいかにも日本語能力検定をいかに取得させるかが課題。

留学生の就職に関しては、就職先の職務内容が専門学校における学修内容との関連性が必要となり、これが、留学生にとって就職が厳しくなる要因であり、課題。

② 今後の改善方策

- ・留学生募集時に、日本語能力検定N2取得者限定という原則を堅持することは非漢字圏からの留学生が増加する中で、厳しい状況にある。

就職に必要な日本語能力検定N1取得を目標に2年間カリキュラム構築が必要。

- ・留学生の就職に有利になるように、専門学校の履修内容に関連するアルバイト・インターンシップを経験させるように誘導・指導をする。

③ 特記事項

トライデントで学ぶ外国人留学生はここ数年拡大の一途をたどっている。最近の傾向としては漢字文化圏の中国・韓国・台湾・香港に変わって、非漢字文化圏ベトナム・ネパール・スリランカ出身者が急増している。

留学生は学業が本分であり、原則として就労は認められていない。資格外活動許可を取得すれば、1週28時間（学校の長期休業期間は1日8時間）の範囲内で、禁止された場所や職種を除きアルバイトを行うことが可能。しかしながら、非漢字文化圏ベトナム・ネパール・スリランカからの留学生は本国との貨幣価値の相違からややもすれば制限時間を越えて働くという誘惑に駆られ、若し守られない場合、就職時の在留資格の変更・期間延長時に決定的な悪影響を及ぼしかねない。そこで、本校では留学生に「留学生アルバイト状況届書」を提出させるとともに在籍管理を徹底している。